

たんぽぽ だより

2004年 7・8月 NO21

日本共産党 川西市議会議員 **黒田みち**

市政にたいする要望・ご意見をお寄せください。

日本共産党川西市議団控室 ☎740-1111 (内線4020)
FAX 759-1811

みんなが
住んでよかった
と思える川西市に……
くらし・福祉・
教育最優先の市政めざして



梅雨を感じる間もなく、夏がやってきました！体温を超える暑い日が続きます。

ぜひ、十分な水分補給や休養で元氣にお過ごし下さい。



2004*
国民平和
大行進



川西市役所から宝塚山本まで…行進

参議院選挙の真っ只中、毎年恒例の「国民平和大行進」東京コースが川西市入りをしました。「核兵器なくせ、戦争反対・平和のルール守れ」と今年は47年目。イラクでの多国籍軍への参加や憲法9条を改悪する動きなど「国民を戦争に総動員しよう」という流れがある中で「憲法をまもれ！！」のシュプレヒコールがひととき大きく響きました。

日本の夏は広島・長崎での被爆や敗戦など、平和や命について考え、行動を起こす季節かもしれません。「9条の会」の賛同者に永六輔さんや吉永小百合さんなど190氏(第1次分)が発表されました。

今、自分の意見を行動に移すことが、求められています。出来ることから始めませんか？決して愛する者を戦場に行かさぬように…！



5歳児保育料値上げ・中央北地区整備事業の2議案には反対！

公立幼稚園5歳児保育料を1ヶ月1000円値上げする議案。子育て支援だとか、少子化対策だと言いながら市民負担ばかり。留守家庭児童育成クラブも有料化になったばかり。人件費を入れた「受益者負担」は子育て世代を直撃。たった600万円程で値上げせずに済むのですから、真の子育て支援をすべきと訴えました。(反対は共産党のみ)

川西市が65億円で先行取得した土地を47億円で都市整備公社へ売却する議案。皮革工場の建物補償費だけで65億円支出予定というのですから、土地の差額や見通しのない開発への支出の為の借金返済は市民がかぶる事になります。財政困難と言いつつながら開発優先、市民負担増ばかりはやめるべきと訴えました。(反対は倉谷議員と共産党)

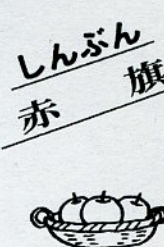
本当に「国を愛する」とは

子どもたちがつづいた作文や詩の中から、憲法の精神にかかわる作品を集めた『子どもたちの日本国憲法』(日本作文の会編、新読書社刊)が注目されています。巻末にメッセージを寄せた米倉齊加年さん(演出家・俳優)と、編集委員代表の村山十郎さん(大東文化大学教授)に思いを聞きました。

そんなじいさんの姿を、子どもたちは声も立てずに食い入るように見ている。恐怖に痛めつけられたおとなの体験を本能的に感じ取っているのでしょう。戦争で食べ物がなくて小さな子どもが死んだ弟たちのごとを私が描いた絵本「おとなになれなかった弟たち」を、いろいろな人の前で読んでいます。でも、子どもの前ではなぜか読みすめることができません。泣いてしまうのです。

「戦争とは人を殺すこと。この当たり前のことを、子どもたちは無垢(むく)な心で感じ取り、つづけてくれました。それが本としてまとめられ、その純粋で根源的な意見の数々に、私はひきつけられたのです。子どもはまだ幼いから「経験がないから」と軽んじられがちですが、そうではありません。飢えて死んだ弟たちのごとを私が描いた絵本「おとなになれなかった弟たち」を、いろいろな人の前で読んでいます。でも、子どもの前ではなぜか読みすめることができません。泣いてしまうのです。

「また、せんそうがおこるかな。」
と、思うだけでぞっとする。(神奈川・一九八九年)(第一巻『平和な世界を』から)



『子どもたちの日本国憲法』は、『平和な世界を』『主人公はわたし』『人間らしき生きる』の全三巻。戦前の生活つづり方の伝統を受け継いで、作文教育の研究をすすめている民間教育研究団体「日本作文の会」が編集しました。小・中・高・養護学校の子どもたちがつづいた詩や作文、百十四の作品を収めています。

2004年7月10日(土曜日)

演出家・俳優
米倉齊加年さん

「戦争とは人を殺すこと。この当たり前のことを、子どもたちは無垢(むく)な心で感じ取り、つづけてくれました。それが本としてまとめられ、その純粋で根源的な意見の数々に、私はひきつけられたのです。子どもはまだ幼いから「経験がないから」と軽んじられがちですが、そうではありません。飢えて死んだ弟たちのごとを私が描いた絵本「おとなになれなかった弟たち」を、いろいろな人の前で読んでいます。でも、子どもの前ではなぜか読みすめることができません。泣いてしまうのです。

「君が代」を歌えとか「日の丸」を掲揚しろとか、そういうことばかりです。それが「愛国心」というもの。僕は「愛国心」というものをどういうふうに使ってほしくない。日本中が声高に「国を愛する」と言い出す時は、戦争に向かっていくということ。そんな「愛国心」を耳にする、虫酸(むしず)が走り出す。

せんそうがきらいだから、わたしは、せんそうがきらいだから、せんそうの詩を書いちゃった。
せんそうのことは、かんがえないようにしているの。
「また、せんそうがおこるかな。」
と、思うだけでぞっとする。(神奈川・一九八九年)(第一巻『平和な世界を』から)

戦争という愚かな行為をおどなたちが繰り返すことしているからこそ、子どもの純な声を受け取らなければならぬと思います。



東京から広島まで通し行進の
かねとう青年と共に…



「九条の会」改憲の動きにたいし、世界に誇る日本国憲法を守り、発展させようと、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子の文化人九氏が呼びかけて六月十日に発足しました。

